

# 食卓を支えてきた日本農業

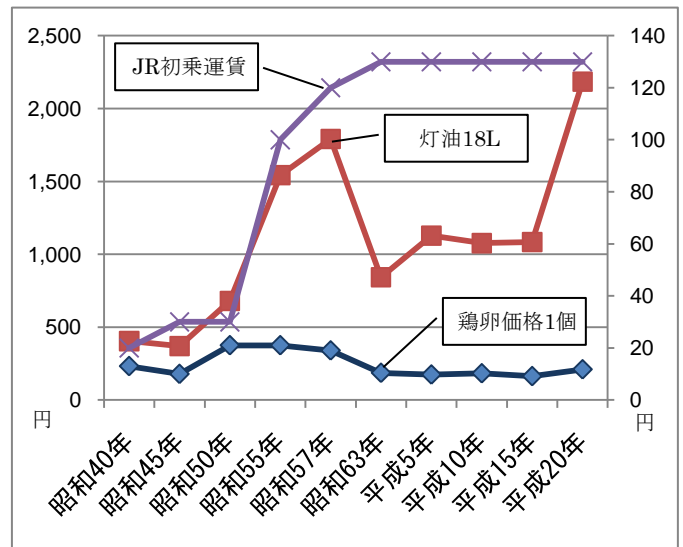
平成 23 年 3 月 3 日 (社) 日本農業法人協会

## はじめに

- 農業では、米、野菜、果樹、花き、鶏卵、養豚、酪農、肉用牛など、様々な農畜産物が生産されています。農業法人は、それぞれの生産に適した経営を行ってきました。
- この中でも「鶏卵」は、昭和40年代から小売価格が安定してきたことから物価の優等生と言われています。「鶏卵」を例に、生産者の絶えざる努力を紹介します。

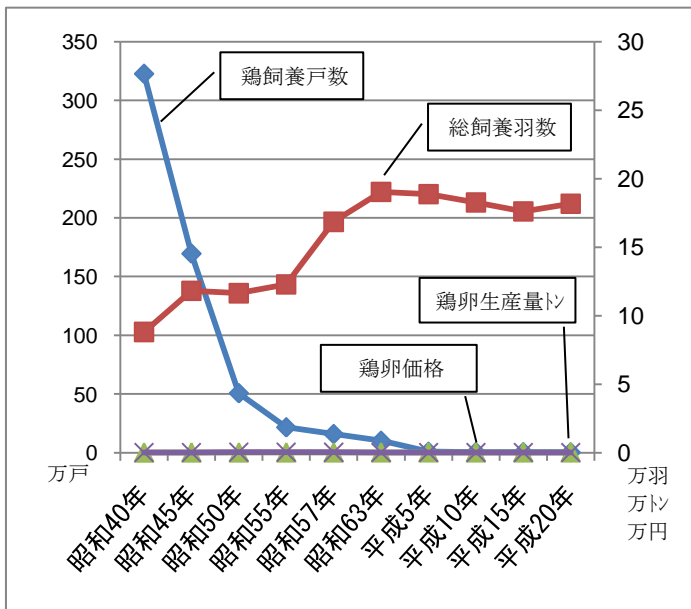
## 1. 灯油、鶏卵、JR初乗運賃の変化

- ・ 灯油価格は昭和40年以降上昇を続け、昭和57年以降一旦は落ち着くものの、再度上昇しています。
- ・ JRの初乗運賃は、昭和40年の20円を始めとして上昇を続け、現在の130円に至っています。
- ・ 鶏卵価格は昭和40年の13円に始まり、平成20年の12円に至るまで、概ね一定で推移しています。



## 2. 養鶏戸数、飼養羽数、生産量、鶏卵価格の推移

- ・ 戸数は昭和40年には322万戸であったが、昭和45年以降激減し、平成20年で3,300戸まで減少(昭和40年対比千分の一)しました。
- ・ 一方で、飼養羽数と鶏卵生産量は昭和57年以降ほとんど一定であり、鶏卵生産者の激減とともに、大規模化と集約化が進んだことを示しています。
- ・ また、この間、鶏卵価格は概ね一定で推移しています。



以上のように、食卓を支えてきた優秀な日本農業の代表例ともいえる「鶏卵価格」は、その他の物価が上昇する中で、経営者が自助努力することにより生産の効率化を図ってきました。

このような農業の状況や情勢について、広く国民に説明をし、その理解を得ることが必要であると考えています。